

【W11】「高齢者の音楽療法のいままでとこれから ～「曲の共有」と多様化する音楽の好みから考える～」

【講師】佐々木 和佳

【要旨】

高齢者施設や病院において約 20 年間音楽療法に関わっているが、活動の中で用いている楽曲、活動のスタイルや内容が約 20 年の年月の中で少しずつ変化してきている。音楽療法を行う際、その時その場で出会う対象者にとって、最善な楽曲や活動を選択して行っているため、連続性のある日々の音楽療法セッションの中ではあまり変化を気にすることはなかったが、長期間のスパンで振り返ってみると、曲の傾向や活動スタイルがだいぶ変わってきている。

同じ 80 歳でも 20 年前の 80 歳と現在の 80 歳では、生きて来た時代や環境、生活スタイルが違うことが容易に想像できるだろう。音楽療法の場で用いられている楽曲について考えてみると、集団で成立していた「曲の共有」についても 20 年前と現在では成立の仕方が少しずつ変わってきているように感じる。そのことには、参加される対象者の年齢の幅が広がっていることも考えられるが、それよりも現在の高齢者世代は音楽の好みが多様化していることも挙げられるのではないだろうか。

また、高齢者の音楽療法という言葉に含まれる対象者はとても幅が広く、活動的に過ごされている方から活動性が低下している方までさまざまである。高齢者の音楽療法の対象者の幅は広いがどの段階にあっても、音楽はそれぞれの対象者の状態に合わせて柔軟に関わることの出来るものと感じている。

本講義では、高齢者施設や病院で取り組んできた約 20 年の音楽療法のいままでとこれからの一例として紹介し、フロア内でのディスカッションのきっかけに出来ればと考えている。

高齢者の音楽療法をはじめる前の方、はじめたばかりの方、中堅、ベテラン、それぞれの方にとって、高齢者の音楽療法のこれからと一緒に考える機会となるような時間としたい。

【プロフィール】

東邦音楽大学ヴァイオリン専攻卒業、洗足学園音楽大学音楽療法士資格取得準備講座修了、筑波大学大学院博士前期課程リハビリテーションコース修了。

日本音楽療法学会認定音楽療法士、精神保健福祉士、認知症ケア上級専門士、英国ブラッドフォード大学認定 DCM 基礎ユーザー。

精神科病院、高齢者施設、障害者施設、行政主催の介護予防・認知症予防教室等においても音楽療法を実践。